

新たなスタート

「マラソン大会と組織改編について」

足羽福祉会 理事長

高村 昌裕

発展させていくために、参加者、運営側、地元の方々それぞれに「ふれあいマラソン」の意義が深まつていくようになります。

それらを機能ごとに6つの拠点に整理いたしました。

もう一つの理由は、相談支援の充実化です。1人の利用者が「日中は○○、夜間は△△」と複数のサービスを利用し、かつ選択もできるようになる中、介護保険制度で「ケアマネージャーがケアプランを立てる」ように、「相談支援専門員がサービス等利用計画を立てる」ことになったのです。当法人では相談支援事業所「リアン」を立ち上げ、現在4人の相談支援専門員が法人内外の各サービス事業所と連携を取りながら業務にあたっております。

新政権の打ち出した成長戦略のもと、景気回復への期待と不安が入り混じった状況ですが、足羽福祉会では新しい職員を加え、希望と責任感をもつての平成25年度をスタートさせています。

親子が快走し、成功裏に終えることができました。皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、今年度より当法人では新会計基準への導入にあたり、これまでの障がい福祉の施設区分を廃止し、組織の改編を行いました（下図）。

その理由の一つは、障害者自立支援法以降、サービスの単位が「施設」から「事業所」に代わってきたことです。かつての入所授産施設「足羽ワーケンセンター」は

去る3月24日、当法人として初めての試みとなる「第1回足羽川ふれあいマラソン」を開催しました。

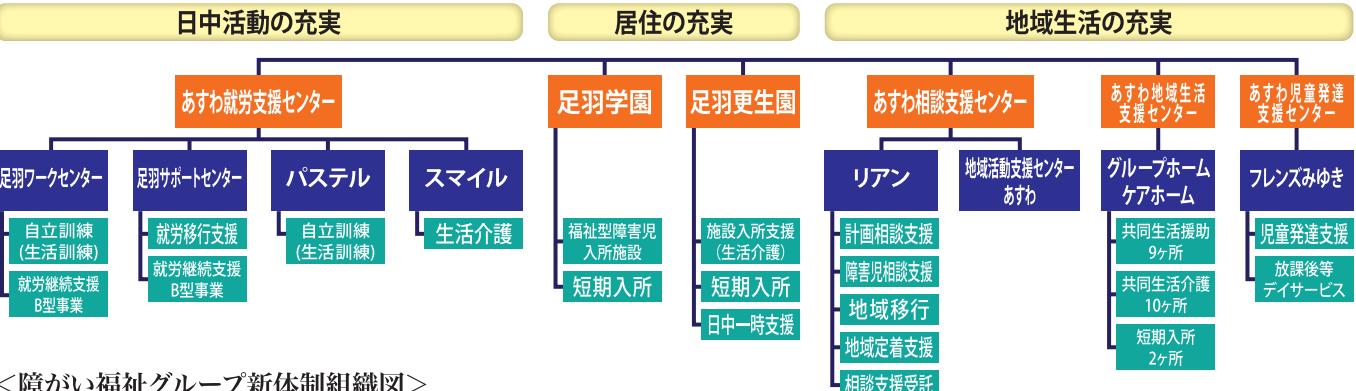
お陰をもちまして、350人ものボランティアの皆さんや関係諸団体、地元木田地区のご理解、ご協力を得て、1,950人のランナー！

運営による本大会を継続

現年、日中活動の事業所4か所、グループホーム・ケアホーム8か所のほか、相談支援、地域活動支援センターといつた、多数の事業所に機能分化しています。足羽更生園でも同様にサービスの地域化、分散化が進んできました。今回

今回の改編により、より立つた、生涯にわたる途切れのないサービス体制の構築を目指し、職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。

今後、ボランティア主体の運営による本大会を継続して、1,950人のランナー！



<障がい福祉グループ新体制組織図>